

令和3年度 第3回スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和4年2月21日（月） 13：26～15：00
場 所	第2委員会室
参 集 者	委 員／齋藤 隆、佐藤紀巳雄、齋藤 勉、田中 学、 出嶋 幸、角南俊介（Web参加）、穂積 祥 欠 席／中條庸右、大滝美樹 酒田市／鈴木教育長、池田教育次長、齋藤課長、樋渡補佐、 長谷部補佐、土門主査兼係長、本間調整主任、乙坂係長
配布資料	・次第 ・審議会委員名簿 ・資料1 令和4年度予算（案）について ・資料2-1 令和3年度における取組み状況について（基本目標Ⅰ） ・資料2-2 令和3年度における取組み状況について（基本目標Ⅱ） ・資料2-3 令和3年度における取組み状況について（基本目標Ⅲ） ・資料2-4 令和3年度における取組み状況について（基本目標Ⅳ） ・資料3 アンケート調査の実施について ・資料4 酒田市体育施設整備懇談会について

1. 開 会（略）

2. あいさつ（鈴木教育長）

- ・昨日2月20日で「まん延防止等重点措置」が解除されたが、3月6日まで県独自の「リバウンド防止特別対策期間」となり、「まん延防止等重点措置」の期間と変わらない状態で、子どもたちの教育現場を守るために、部活動をはじめ、市民の皆様には社会体育活動の自粛をお願いし、市スポーツ施設と学校体育館を休館するという対策をとらせていただいている。自粛生活が続く中で、健康二次被害が懸念されている。
- ・昨日閉幕した北京オリンピック競技大会での日本選手の活躍は、日本中に勇気と感動を届けてくれ、改めてスポーツの持つ力を感じたところである。
- ・令和4年度こそは、あらゆるスポーツイベントがコロナ前と同様に開催できるよう、期待したい。
- ・令和4年度の予算（案）について、来年度のスポーツ関係事業については、新たに事業の組み直しを行い、「酒田市スポーツ推進計画」に沿った形で進めていきたいと考えている。
- ・本日の審議会では、策定して4年目を迎える「酒田市スポーツ推進計画」の進捗状況を踏まえ、実効性のある施策を進めていきたいと考えているので、委員の皆様からそれぞれの立場でのご意見を頂戴したい。

3. 協議（進行：副会長）

- (1) 令和4年度予算（案）について【資料1】
(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

- （委員）各事業の中で新規事業のものには「新規事業」と分かるように明示してもらえると見やすかったと思う。
- （委員）スポーツ鬼ごっこについて、小学校のうちモデル校を3校とあるが、1年生から6年生までの学年も体育の授業で実施する形になるのか。
⇒昨年モデル校として琢成小、浜田小、十坂小の3校で実施するよう調整を図っているが、各学校5年生を対象に実施する方向で考えていると伺っている。
- （委員）スポーツ鬼ごっこについて、11月の市招集校長会で説明を受けた中で、学習指導要領の話が出たと思う。早い段階でモデル校と打ち合わせを行い、理解を得て進めていければ、体づくり運動の単元の一つとして実施可能だと思う。運動が苦手な子どももいるので、大学生の力を借りながら運動好きな子ども達を増やしてほしい。
⇒委員のおっしゃる通り、体づくりの単元の一環で行う予定であり、モデル校の校長先生とは調整済である。東北公益文科大学とも調整を図っているが、学生の履修科目の決定等の関係で、4月・5月の事業スタートが難しい話を頂いている。遅くとも9月にはスタートを切りたいと思っている。新年度になったら、関係者と調整をしていきたいと考えている。
- （委員）「スポーツ鬼ごっこ」という名称は市民権を得たものなのか、独自にネーミングしたものか。
⇒「スポーツ鬼ごっこ」という名称はもともとあったもので、スポーツ鬼ごっこ協会も存在している。通常の鬼ごっこと異なり道具が必要になるが、カラーコーン等で代替して実施できるので、学生にルールを覚えてもらいながら、実施方法について担任の先生等とも打ち合わせをしていきたいと考えている。
- （委員）地元の大学と連携していくのは非常に大切なことだと思う。

（2）「酒田市スポーツ推進計画」について

令和3年度における取組み状況について

I 誰もが楽しめる生涯スポーツについて【資料2-1】

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

- （委員）運動部活動改革について、スポーツ振興課として、中学校部活動に限らず、運動の在り方というか大きい捉え方の中で、部活動の地域移行ということについて将来的な展望をどう持っているか、考えをお聞きしたい。
⇒中学校部活動については、受け皿として想定されている総合型地域スポーツクラブや競技団体、地域の組織等から情報を収集している段階だと思うので、具体的な方向性はなかなか見えていない。これまでの部活動と同様に、学区内での活動にこだわれば新たな施設が必要になる場合があること、また既存の施設を利用するとしてもその場所までの移動手段が必要になること等、様々な問題が想定される。学校教育課と連携しながら、方向性についての検討を続けていきたい。
- （委員）地域移行後の指導者確保の問題も絡んでくる中で、その報酬など予算化があるのか伺いたかった。令和5年度から地域移行が始まることを考えれば、あまり時間は残されていないと思っている。
⇒指導者の中でも、報酬をもらいたい人、ボランティアでなければできない人など、それぞれ事情が異なると思っている。今後、調整を図りながら方向性を探していきたい。現時点で具体的な展望というものはない。

- (委員) 情報提供として、2月12日に庄内地区の広域スポーツセンター主催で総合型地域スポーツクラブや行政関係者を集めて、指導者スキルアップセミナーをオンラインで開催した。その中で、村上市の総合型地域スポーツクラブ「希楽々(きらら)」の理事長で、全国の運動部活動ガイドラインを策定検討する委員にもなっている方から講演を頂いた。村上市としては、各競技団体、体育振興会、総合型地域スポーツクラブ等、各組織がバラバラに部活動を考えるのではなくて、皆で共有し合って一緒になって考える検討委員会のような組織を平成24年から立ち上げて検討しているそうである。前に進めるきっかけとして、そのような進め方もあるのかなと思った。
- (委員) スポーツ能力測定会について、測定後の結果の利活用や検証の部分が大事になってくると思うが、どうなっていくのか。
 - ⇒スポーツ能力測定会は、スポーツ鬼ごっこ、スポーツ少年団とともに「子どものスポーツチャレンジ支援事業」の相関図(サイクル)を考えた事業の一環である。自分がどういうスポーツに向いているのかを子どもに知ってもらい、出てきた結果の中に興味があるスポーツがなくても、どういうトレーニングをすれば良いか等のアドバイスをもらえるものである。
- (委員) 測定会の会場を見学した際、事業担当者から測定結果がどのように出るのか見せてもらった。詳細なものは出せないということだったが、軽く見ただけでも子ども達に向いているスポーツが個別に10種目ほど出ていた。保護者はその結果を持っているので、酒田市として活用方法等を考えていってほしい。この事業に期待している。
 - ⇒事業の対象人数を200人程度と考えており、小学生であれば1学年で700人程度いる。それを考えると3分の1または、4分の1程度が対象になりうるのではないかと考えている。今年度実施した際も、小学校低学年の参加が多かった。スポーツを始めさせたい保護者が自分の子どもに何のスポーツに向いているのか知りたいという理由から参加している例が多かった。高校入学を機に新たな部活動を選ぶきっかけにしたいと、参加していた中学3年生の姿もあった。例えばこれからスポ少へ加入する3年生で100人、中学校で何らかの部活動へ入りたいと考えている6年生で100人とか、子どもの将来のスポーツ実施に繋がる事業にしていきたいと考えているので、内容について内部で調整していきたい。
- (委員) スポーツ能力測定会に参加した市内の参加者の学年別の参加人数等把握しているものか。
 - ⇒人数を調べている間、部活動の関係で情報提供をしたい。先日、県を通じて部活動改革シンポジウムが3月17日にオンラインで開催されるという案内が届いた。主催がつくば市立谷田部東中学校で、洞峰地区文化スポーツ推進協会というところが部活動改革に取り組んでいるというもの。メンバーは学校の先生たちがほとんどで、地区住民も含めて、行政を除いたメンバーで動いているようである。
 - ⇒スポーツ能力測定会の市内参加者の学年別人数のデータはないので、全体参加者の学年別人数をお知らせする。小学1年生は46人、小学2年生は48人、小学3年生は31人、小学4年生は26人、小学5年生は24人、小学6年生は20人、中学1年生は10人、中学2年生は3人、中学3年生は6人、学年不明が1人、合計215人となっている。男女別では、男子が133人、女子が82人となっている。
- (委員) 測定の話が興味深い。エリートスポーツの選手を発掘するという目的と、市民全員の活動・体力状況とか一般的なものが一緒になっているイメージがある。チャンピオンスポーツを考えると、測定して何のスポーツに向いているかをやっても、そこからチャンピオンが生まれてくることはない。重要なのは、一般の子ども達が、今

現在どの段階にあって、継続していくことによってどういう変化が生まれてくるのか、どういう影響が出てくるのかなどを検証することで、解決策が見出せるのではないかと思う。チャンピオンを育てることも非常に大切なことだが、もっと大事なのは子ども達の体力などを把握することだと思った。

⇒基本的にはチャンピオンを育てるというよりも、あくまでもスポーツを始めるきっかけ、競技をするきっかけの導入部分という位置付けで考えている。競技をしていくうえでは、競技団体の育成部分に繋がってくると思う。行政が担う部分としては、あくまでもきっかけづくりに重きを置きたいと考えている。

Ⅱ 感動と活力に満ちた競技スポーツ【資料 2-2】

(資料に基づき、事務局説明)

特に質疑等なし。

Ⅲ スポーツによる賑わいとまちづくり【資料 2-3】

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

- (委員) ニュージーランドとの交流のきっかけは、東北公益文科大学にニュージーランドの研究所がある経過からか。
- ⇒それもあがるが、副市長のつながりもあったことから交流が始まった。
- (委員) スポーツに限らず、今後も東北公益文科大学と連携して行ってほしい。

Ⅳ 安全安心なスポーツ活動のための環境整備【資料 2-4】

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

- (委員) 東北公益文科大学の学生が市の事業に色々と関わっていることに興味深く感じている。自分が所属する大学では、キャリア教育とかボランティアとか、単位と結びつけて研修することはあるが、地元で大学があるということは財産だと思うし、大学側にとっても行政と連携ができるということは良いことだと思う。それを深めていければ、人材確保などの面からも良いと思う。

●アンケート調査の実施について【資料 3】(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

- (委員) 昨年度のアンケートの回収率は。
- ⇒昨年度の回収率としては、2/9 現在値で 38.1%となっている(最終 42.0%)。
- (委員) 市体育協会からのお願いで、国体記念体育館でフロアカーリングの教室を行っているが、国体記念体育館まで来るのが大変という話も聞く。地域でそういったニュースポーツ(フロアカーリングやモルックなど)の教室がどれくらい開催されているのか、指導者がいるのか知りたいので、そういったアンケートを実施していただければと思う。各地区でスポーツ教室をする際の備品購入にも補助をしてほしい。
- ⇒各地区における教室の開催状況などの調査を、コミュニティ振興会を通じて毎年実施している。スポーツ推進計画での数値目標として、スポーツ行事への参加者数 38,000 人としており、令和元年度は 41,057 人、令和 2 年度は新型コロナの影響により 11,327 人となっている。データを若干手直しして、次回の審議会では委員の皆様へ出せばと思う。
- ⇒スポーツ推進委員会として、委員会の活動がコロナの影響によりできないという理由

から、昨年度及び今年度に各地区でスポーツ教室を実施する際の備品購入に対して、上限5万円で補助をしているが、毎年準備することは難しい。まちづくり推進課の予算になるが、可能であれば、まちづくり交付金の中に算入して地域から上げてもらえば良いと思う。

- （委員）ボランティアや総合型地域スポーツクラブについてどう思うかとか、酒田市のスポーツ振興についてどう思うかとか、何年かに一度は細かい部分についても市民の意見を聞くアンケート調査を実施しても良いと思う。

⇒今回のアンケートは、スポーツ実施率を出すためのものであったが、委員から頂いた意見について今後実施していく中で検討していきたい。

（3）その他

●酒田市体育施設整備懇談会について【資料4】（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

- （委員）体育施設整備懇談会は令和4年度のみ開催するものか。
⇒令和4年度はお示した形で開催するが、令和5年度は急を要して改修しなければならない案件が出てこなければ立ち上げない。こちらについては、要綱を整備して進めていく。
- （委員）要望会ではなく、建設的な懇談会になることを祈る。

4. その他

特になし

5. 閉 会（略）

以上